

# 風土を温める

あたた

シリーズ 高山の文化財⑬

【市指定無形民俗文化財】

## 親子獅子舞

獅子舞は祭礼の芸能として飛騨地方では欠かせないものです。市内では、山王祭や八幡祭で見られる振獅子(兵助獅子や徳兵衛獅子とも呼ばれる)の系統が多く、伊勢神楽といわれる優美な獅子舞を舞うところ(東照宮、新宮など)もあります。その中でも、飛騨総社の親子獅子舞は、曲芸的な舞が見どころで、ほかでは



「竹に雀」逆立ちして後足にじゃれる

見られない独特のものです。

この獅子舞の由来は、飛騨総社を再興した国学者の田中大秀が、文政元(一八一八)年の夏、飛騨一宮水無神社の神輿を招いて「零祭」(雨乞い)を行った際に奉納されたのが起源といわれています。以来「雷獅子」「雨乞獅子」とも呼ばれたという伝承があります。芸能としては、明治・大正時代を経て、現在のように洗練されたと考えられています。

※

- 獅子舞の曲目としては次の九曲があります。( )内は別名
- ▽曲Ⅱ最初に舞われる曲で、町内を回る際は、この曲を短く切り上げた「いせぐち」が舞われる
- ▽おぼこⅡ獅子の背や尾にじゃれる
- ▽おちやえ(抱き上げ)Ⅱ後足役が前足を抱き上げる
- ▽竹に雀(てんぼ返し)Ⅱ後足役が逆立ちして後足にじゃれる
- ▽新版(足くい)Ⅱ後足に噛みつくようにじゃれる

▽ちゃんでこ(あぶんこ)Ⅱ前足役を肩車し歯を噛み鳴らし進む

▽高い山(違い獅子)Ⅱ後足役と前足役が交互に相手を抱え上げる

▽へんべまむしⅡ獅子が蛇を探して食べ、食休みして立ち上がる

▽巻き上げⅡ輪になって飛び跳ねるように勇壮に舞い清める

このほか、舞のつかない道中の曲として「道行」「したかいどう」があります。

※

親子獅子舞には、その名が示すように、親獅子と子獅子があります。子獅子を舞うのは小学校三年生くらいからで、祭礼前には笛・大太鼓(平釣太鼓)・締太鼓などの囃子方とともに練習に励みます。

五月四・五日の例祭日には本隊・分隊に分かれて氏子の各町内を回ります。五日の午後からは神輿行列とともに神社に戻り、夕方には境内で約二十頭の獅子が並んで、すべての舞を奉納します。

平成十三年には、ユネスコ主催の「東アジア子供芸能祭」に日本代表として出演し、中国の北京市や蓬萊市で公演を行いました。また、翌年には、ドイツで上演するなど、芸能を



中国蓬萊市で上演(平成13年)曲目は「高い山」

通じた国際交流も盛んに行われています。

この親子獅子舞は、昭和十年に中津川市の本町地区に伝えられ、現在も「神代獅子」として熱心に舞われています。また、下呂市萩原町尾崎にある明白神社や、同町羽根の宮谷神明宮など、いくつかの神社の祭礼において、この系統の獅子舞が舞われています。このような芸能の交流の中に、民俗芸能が伝承されていくようすを見ることが出来ます。

所有者 飛騨総社親子獅子舞保存会

所在地 神田町二

見学

神社の例祭日(五月四・五日)に飛騨総社などで